

∞ サムラング・KLAWIL GUTNGA (ライフセンター) だより ∞

今回のサムラングの治安悪化は、長年反目しあっていた親族集団（ともにビラーン族）間の抗争だったことが12月の訪問で分かりました。コミュニティー・リーダーだったルビナ・サンの家族は、一方のグループの親族だったため、難を避けてサムラングを離れました。2月11日付の現地情報では、CMBの調停で完全に平静に戻ったとのこと。彼女も2人の子どもとともにサムラングに戻っていればよいのですが。

クリニックでは少し前から、患者一人1回当たり、1ペソ（約4円）負担してもらうことになりました。これは住民の自立意識を育てるとともに、医薬品や備品の充実のためです。

医薬品はHANDSの正会員の皆様によって支えられています。しかし、インフルエンザのように大量に患者が出る時には対応しきれず、昨年末から続くアトゥモロックを中心とする風邪の大流行では、ついにマルンゴン町に救援を要請したとか。しかし、残念ながら医薬品の支給は受けられませんでした。（12月29日付CMB報告）

アトゥモロックの場合、比較的元気な患者は無料診療時などサムラングのセンターにやってきますが、歩けば2時間ほどある距離を高熱の患者は歩けません。

この現地情報を一部の方にお知らせしたところ、アトゥモロックにも非常用薬品を置いたらどうかとご協力申し出をいただきました。教師達が管理するとの条件で、KULAWIL GUTNGAの出張所のようなものができる予定です。ご協力感謝いたします。（山崎）

∞ クリスマス前のサムラングとアトゥモロックを訪ねました ∞

サムラングの治安回復が完全とはいええない中、積極的に参加者を募らなかつたためか、昨年暮も2人だけの現地訪問でした。しかし、前回に続きレイクセブ滞在中の会員の森田奈美さんが現地合流して下さって楽しい旅になりました。今回は、写真を中心に報告させていただきます。（山崎）



プレゼントを壇上に並べて、まずはフィリピン国歌の斉唱。ビラーン族のアイデンティティを保持しつつ、フィリピンという国家の中で経済的に自立できる日がくることを願って、校庭でのクリスマスパーティーの始まりです。HANDSの特別寄付は、このアトゥモロックのように小学校のクリスマスパーティー費（プレゼント代含む）、ハイスクール・カレッジ生徒の靴とソックス、二つの小学校の掛け時計などになりました。ご協力ありがとうございました。



三番目の娘がハイスクールに入った事が嬉しくて、というアトゥモロックの長老の一人（右はノノイ神父）。マーベルの寮にいる彼の娘スヌリアを支援して下さるのは、東京の会員星川さんです。

早くコミュニティーに戻って働いてほしいとの住民の期待を背に、ビラーンの生徒は町のハイスクールでよくがんばっていて飛び級を目指している生徒もいるとか。ただし、共通語のフィリピン語、英語能力が劣っているので、1年目は特別補習が必要です。